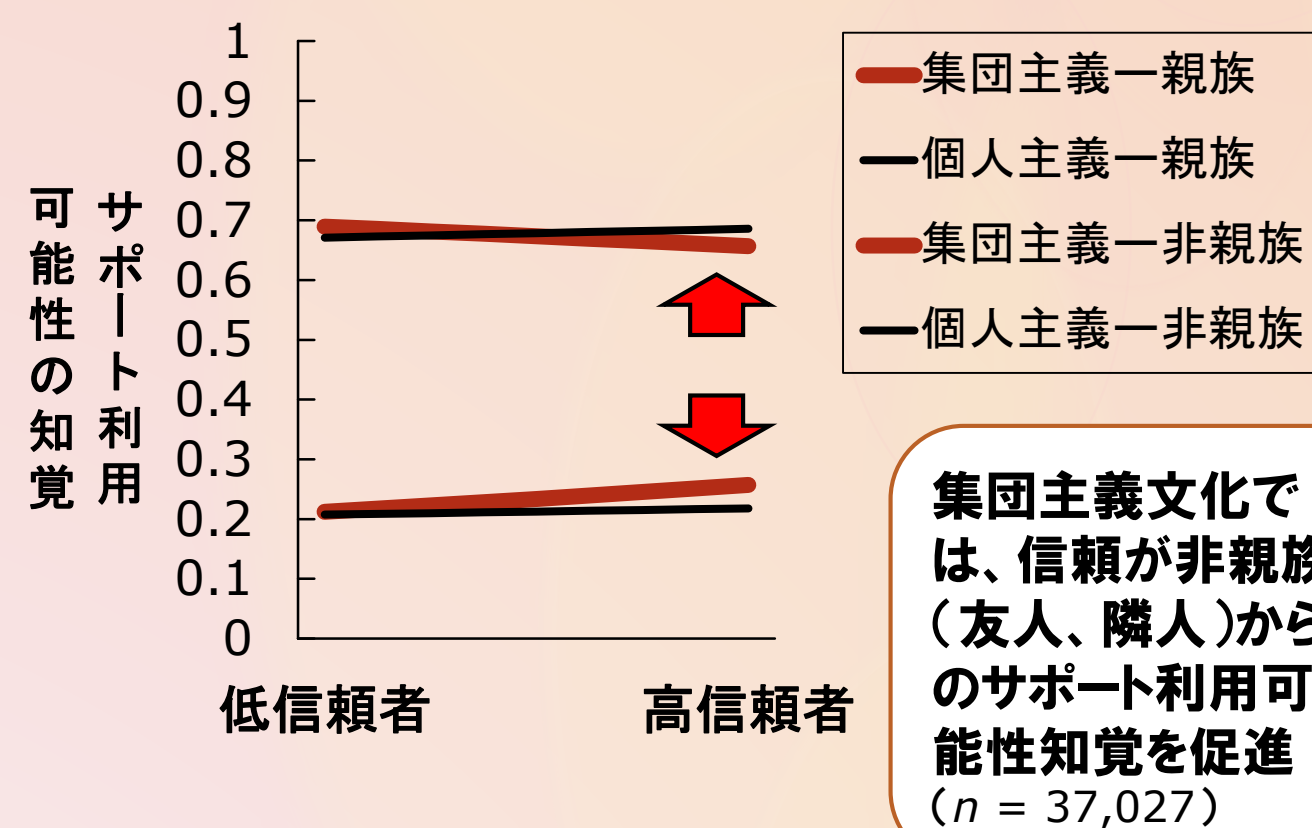




五十嵐研究室では、社会心理学・社会的ネットワーク分析のアプローチに基づいて、人間のこころと社会環境のダイナミクスが生み出す様々な現象を明らかにしようと試みています。特に、認知的評価や態度、感情といった、個人のこころのはたらきに基づくプロセスが、集団内の社会的ネットワークの変容や、それに基づく向社会的・反社会的な信念やステレオタイプの形成をどのように説明するのかを、潜在的・顕在的な測度を用いて多面的に検討することを目指しています。

五十嵐の研究：社会的ネットワーク分析に基づく人間行動の理解

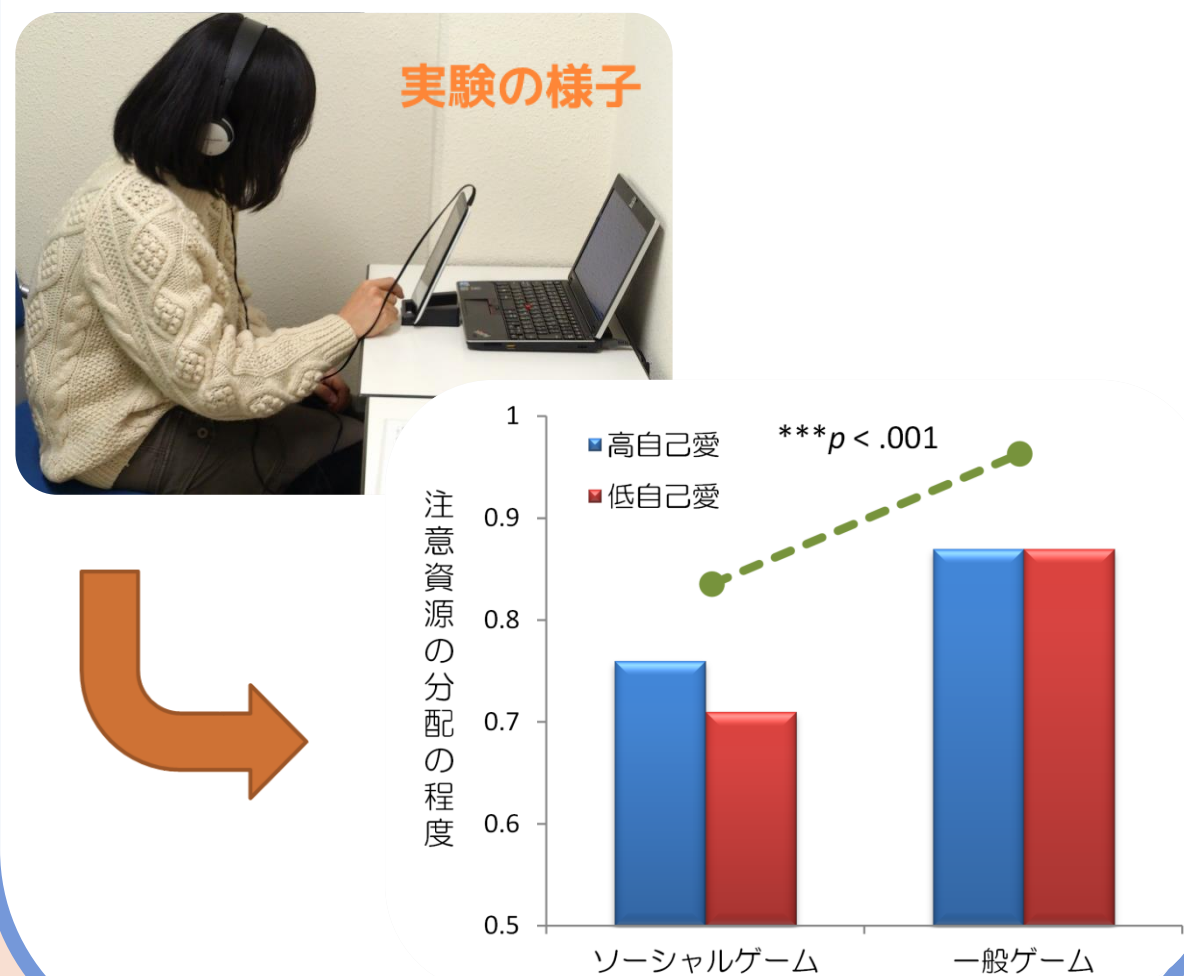
- 「人間関係はどのように利用される？」(Igarashi, 2014)
-信頼とサポート知覚の文化差：ヨーロッパ大規模調査データに基づく検討→
- 「人間関係はどのように記憶される？」(五十嵐, 2012)
-社会的ネットワークの構造は、自己の動機に基づいて記憶される
- 「人間関係は『集団らしさ』にどのように影響する？」
(Igarashi & Kashima, 2011)
-集団らしさは、社会的ネットワークの結合度に基づいて判断される



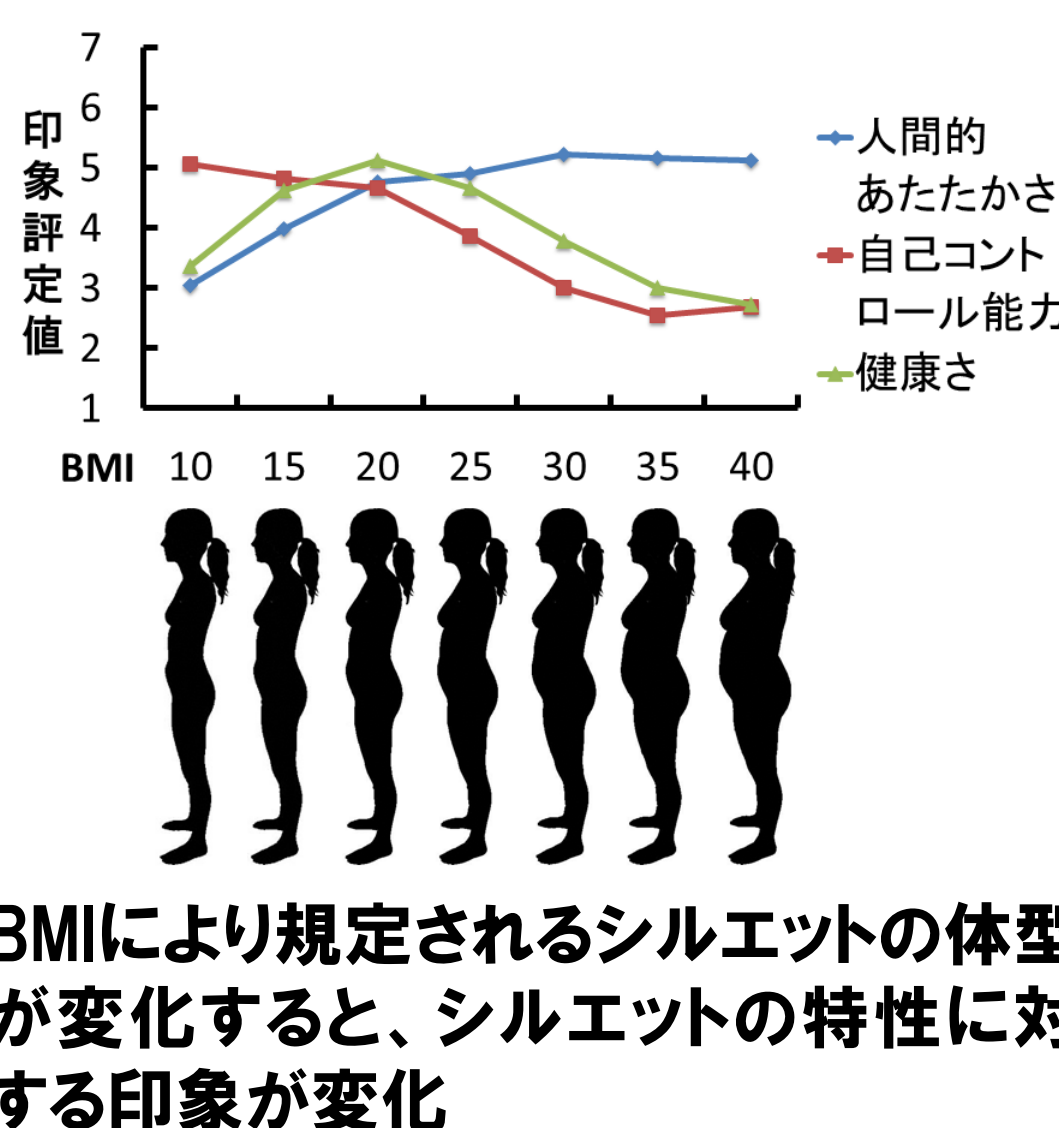
担当科目：社会行動学講義・演習、基礎実験法、調査法(学部)、社会心理学研究(大学院)

ピックアップ研究

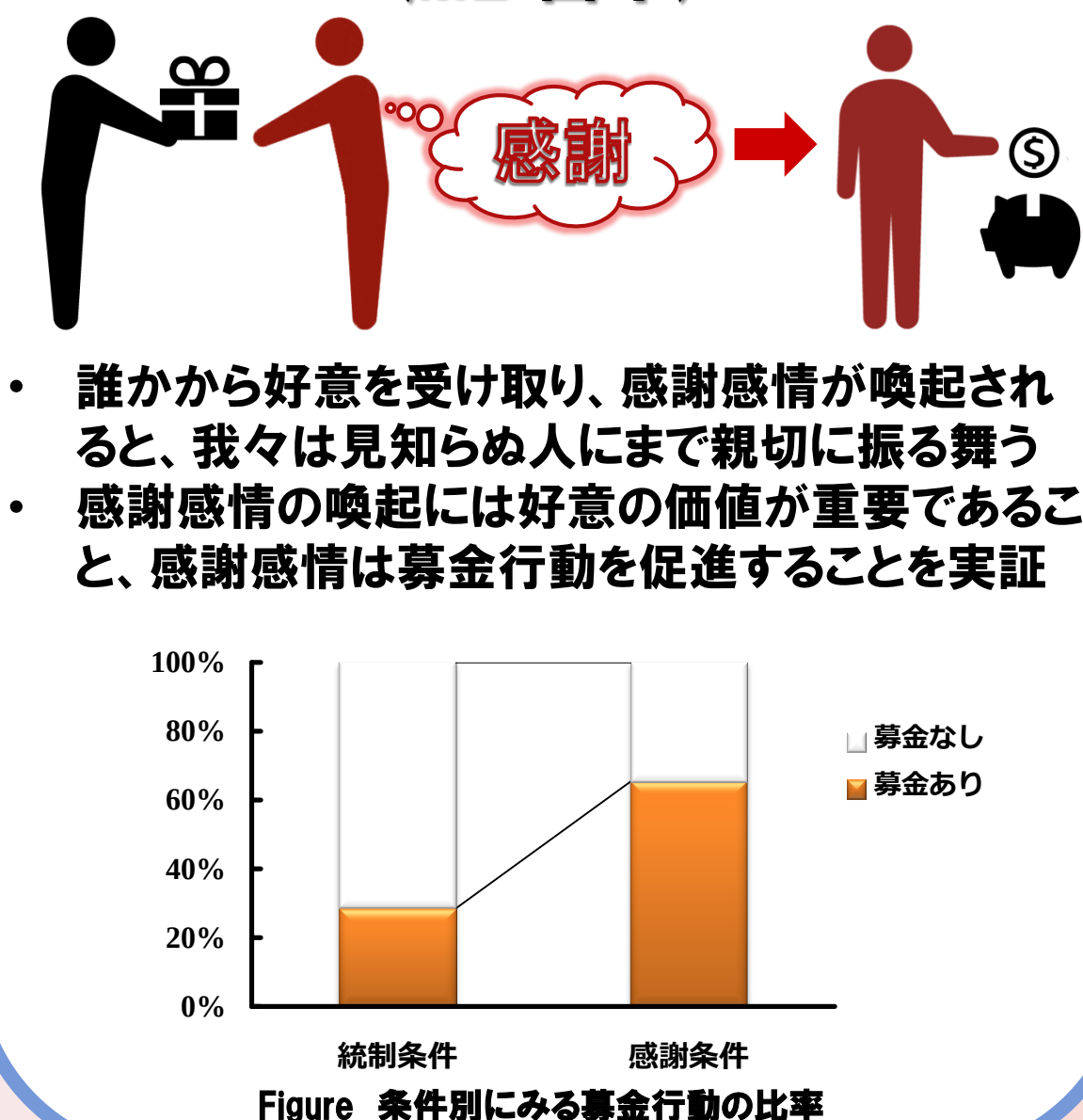
注意制御パラダイムを用いた
ソーシャルゲームへの没入行動 (D3 加藤)
プレイヤーがソーシャルゲームに没入してしまう結果、周囲の環境に対して注意資源を適切に分配できなくなることを実験的に検討



体型と対人印象の
関連に関する研究 (D1 佐名)



感謝が利他行動に与える影響
(M2 白木)



五十嵐祐研究室HP
<http://tasukuigarashi.com/lab/>

研究室メンバーの研究テーマ

- D3 加藤 仁 「自己愛傾向のもたらす心理的不健康への介入的アプローチ」
平島 太郎 「社会的ネットワークの多様性と態度の両価性の相互構築」
- D2 佐藤 有紀 「従業員の制御焦点と職場内の協力」
- D1 佐名 龍太 「日本における肥満者偏見」
玉井 颯一 「社会的排斥の生起メカニズム」
- M2 寺島 裕登 「自我脅威状況における同調と潜在的自尊心」
白木 優馬 「感謝感情による向社会的行動の促進」
- M1 鈴木 伸哉 「集団における援助要請」

主な研究業績

Igarashi, T. (2012). Longitudinal changes in face-to-face and text message-mediated friendship networks. In D. Lusher, J. Koskinen, & G. Robins (Eds). *Exponential random graph models for social networks: Theories, methods and applications* (pp. 248-259). Cambridge University Press.

Igarashi, T., & Kashima, Y. (2011). Perceived entitativity of social networks. *Journal of Experimental Social Psychology*, 47, 1048-1058.

五十嵐祐 (2012). メディアコミュニケーションの普及は、私たちに何をもたらしたか？ 吉田俊和・橋本剛・小川一美(編著) 対人関係の社会心理学 ナカニシヤ出版

五十嵐祐 (2009). CMCと対人関係 三浦麻子・森尾博昭・川浦康至(編著) インターネット心理学のフロンティア 誠信書房 pp. 117-148.

平島太郎・土屋耕治・元吉忠寛・吉田俊和 (2014). 態度の両価性が行動意図の形成に及ぼす影響—子宮頸がん検診の受診を対象とした検討— 実験社会心理学研究, 54.

白木優馬・五十嵐祐 (2014). 感謝特性尺度邦訳版の信頼性および妥当性の検討 対人社会心理学研究, 14, 27-33.

受賞・助成
佐名龍太 (2014). 肥満者ステレオタイプと体型情報による印象の変化 東海心理学会第63回大会 優秀大会発表賞

平島太郎 (2014). 日本社会心理学会 海外発表支援制度

玉井颯一 (2014). 日本社会心理学会 海外発表支援制度

加藤 仁 (2014). 安心ネットづくり促進協議会 2013年度研究支援事業

佐藤有紀 (2013). 産業・組織心理学会 (JAIOP) 研究支援制度